

# 2013 平和行動 in 根室

9月13日（金）～16日（月）の日程で、2013平和行動in根室が開催され、連合山形より18名が参加しました。

集会では、14日に北方四島学習会が、15日には2013平和ノサップ集会が開催され、北方四島の歴史と現状の学習、北方領土返還実現に向けた行動を行いました。

## 1. 参加者

	氏名	組織名		氏名	組織名
1	佐々木 晴美	電機連合	10	安川 周平	J P 労組
2	北原 芳貴	情報労連	11	大沼 好春	J P 労組
3	荒井 拓也	情報労連	12	藤田 智広	酒田飽海地協（電力総連）
4	渡邊 勇樹	電力総連	13	上野 賢	鶴岡田川地協（UAゼンセン）
5	深瀬 裕介	電力総連	14	井上 利夫	新庄最上地協（自治労）
6	勝見 俊郎	交通労連	15	武田 賢太郎	北西村山地協（J P 労組）
7	佐藤 隆文	交通労連	16	加藤 理	山形地協（UAゼンセン）
8	渡部 勢津子	自治労	17	小松 武美	置賜地協（自治労）
9	手塚 寿子	自治労	18	鈴木 徳夫	事務局（山形地協）

## 2. 感想

秋の気配が漂い始めた納沙布岬で連合の仲間18名と北方領土の返還要求集会や各種行動に参加しました。その時の学習会で「ふるさと北方四島への思い」と題し、元島民の鈴木咲子さんが小学4年生の時分に体験された経緯についてお話をお聞きしました。

北方四島には当時1万6千人もの日本人が住んでいました。最初は日本人が住んでいる住宅から時計や貴金属を強奪し、その後、兵士の家族が移り住み、そして日本人は収容所に入れられ2年後には、日本人島民全員が強制排除となり、樺太を経由し内地に引き上げさせられたとのことでした。

この2年間の食糧不足や、劣悪な生活環境のため多くの方々亡くなったそうです。内地に強制送還の折、持ち物は制限され、特に文字が書かかれているものは厳しく、メモひとつ持ち出されず、親戚や友人の住所もわからなくなりました。そのような状況のなか、鈴木さんの村の村長は、骨箱ひとつ持って内地に来たそうです。その骨箱には村民の戸籍原簿を入れ、命をかけて村民の戸籍を守ったということで、本当に兵士の目をかいくぐり薄氷を踏む思い出の帰還は尊敬される方だったと思いました。

現在北方4島は、日本人が開拓した農地や建物は荒れ果てています。鈴木さんは故郷へ帰りたいたい思いはあるけれど、住むとなればライフラインはなく生活はむずかしいだろうと考えておられます。

日本が世界の中で役割を果たすようになった今、日露両国が歴史的経緯の認識について理解し合い、四島在住のロシア人との相互理解、信頼関係を築くために対話集会を引き続き実施し、交流を深めていく事業が必要であると思いました。領土問題は戦後68年経過しても進

展はなく、納沙布岬からは昔と変わらぬ島影が望めますが、二度と島民が味わった苦しい経験を両国でははならぬということ、鈴木さんの願いが一日も早く叶うようにと強く思います。戦後の戦争についての思いや起こったことが風化していく中、戦争はあってはならないと強く感じた納沙布岬でした。

飯豊町町職労 渡部勢津子



四島(しま)のかけ橋を背景に



北方四島学習会